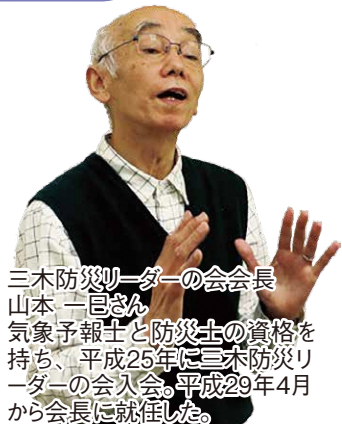




三木防災リーダーの会会長
山本 一郎さん
気象予報士と防災士の資格を
持ち、平成25年に三木防災リ
ーダーの会入会。平成29年4月
から会長に就任した。

「防災の備えで大切なことは、
①**防災情報マップなどを活用し
て自宅周辺で何が危険なのかを
把握しておくこと**、②**日頃から
気象情報に気を配ること**です。
災害への備えと聞くと、多くの
方が、食料の備蓄や防災グッズ
の用意、家屋の保護などを思い
浮かべられます。いずれもする
に越したことはありませんが、
何よりも大事なことは、自分の
命を守ることです。」

命を守る2大対策

市には、地域の防災力向上を
目的に、自主防災組織の訓練や
勉強会など、多岐にわたる活動
を行われている組織、「三木防
災リーダーの会」があります。
今回、会長を務める山本一已
さんに災害への備えとして重要
なことについて伺いました。

三木防災リーダーの会 会長インタビュー

地域の防災力を高めたい



山本さんに
防災リーダー
の会に入会さ
れた経緯につ
いて伺いまし
た。「私は美濃
川の近くに住
んでおり、大
雨や台風が発
生したとき
は、よく避難勧告が発令されて
いました。しかし、避難勧告が
出ても、多くの住民があまり避
難しようとしないうちに危機感
を感じました。そこで、地域の
防災力を高めるため、まずは自
分が防災について学び、避難な
どの率先活動を行おうと思い、
入会を決意しました。」

住民と市のかげはしに

最後に、会長としてのメッセ
ージをいただきました。「今後
も市が発信する防災情報や必要
な知識を地域の皆さんに積極的
に伝えたいと思います。また、
地域の防災訓練などで防災リ
ーダーの協力が必要な場合は、
ぜひお声かけください。あなた
のまちの防災リーダーを派遣しま
す。」



風水害から 命を守るために

問(市)危機管理課

豪雨により水位が上昇した
美濃川(吉川町渡瀬橋)
平成30年7月撮影

登録制メールで防災・防犯情報を得る



三木市安全安心ネット
携帯電話やパソコンのメ
ールを使って、防災・防犯
などの重要なお知らせを配
信しています。

登録はコチラから
(登録無料)



または、
miki@bosai.net
へ空メール送信

身近な場所の危険なことを知る



三木市 防災情報マップ

大地震の被害や洪
水・土砂災害による危
険を予測し、その被害
の影響や範囲を地図化
したものです。
市ホームページで閲
覧できるほか、市役所
や各市立公民館で配布
しています。

大切な命を守るために

近年、人間関係の希薄化が進
むとともに、少子高齢化や人口
減少などによる地域コミュニテ
ィの弱体化が懸念されています。
災害発生時に一人でも多くの
命を救うためには、発生直後に
家族や近所同士での助け合いが
大きな効果を発揮します。
本特集では、市の防災力向上
に尽力する方のお話などを紹介
します。これをきっかけとして、
家族や地域の人たちと改めて防
災について考えてみませんか。

平

成30年度は西日本豪雨を
はじめとする災害が全国
的に発生しました。
三木市においても、7月には
72時間総雨量が観測史上1位の
記録を大きく塗りかえ、兵庫県
では初めてとなる大雨特別警報
が発令されるなど、各所で大き
な被害が出ました。

30年に一度とも呼ばれる異常
気象でしたが、災害から月日が
経つと、私たちの防災意識は少
しずつ薄れていきます。
昨年の災害を教訓とし、日頃
の備えを改めて確認しましょう。

農業やくらしを 守る吞吐ダム

吞吐ダムは、三木市を含めた4
市1町の農業用水および、5市2
町の上水道用水を確保するために
国が設置した利水専用ダムです。
本来の目的が農業用水・水道用水
を貯めるためのダムであることから
下流河川を洪水から守るため必要な
洪水調整機能を持っていません。

大雨でダムの貯水池が満水になる
場合は、大雨によって流入してきた
流量と同じ量だけ下流に流します。
つまり、ダムが無い場合と同じ量だ
け下流へ流れてくることになります。
このように吞吐ダムは利水専用
のダムであり、洪水調整をするた
めのダムではありませんが、昨今、
異常気象等による豪雨が多発して
いる中、少しでも下流河川の安全
を高めることが出来るよう、これ
からも国に要望していきたいと考
えています。



避難情報のレベル化

昨年の西日本豪雨において、逃
げ遅れによる犠牲者が相次いだこ
とを踏まえ、防災気象情報を5段
階の警戒レベルに区分し、避難情
報とあわせて市民へ周知すること
になりました。

市から発令する避難情報は左表
のとおりです。

警戒 レベル	避難情報の種類	とるべき行動(参考)
3	避難準備・高齢 者等避難開始	・いつでも避難ができるよう準備を ・避難に時間を要する方は避難開始を
4	避難勧告	・避難場所へ避難を ・地下にいる人は速やかに避難を
	避難指示(緊急)	・避難していない場合は直ちに避難を ・外出することが危険な場合は自宅内 の安全な場所に避難を
5	災害発生情報	・すでに災害が発生している状況であ り、命を守るための最善の行動を

●警戒レベル1・2(災害への心
構え、避難に備え自らの避難行
動を確認など)は気象庁が発表。